

「助成金獲得講座」開催報告

実施日時：

2013年7月8日（月）15:00～17:00

場所：

淀川区役所5階会議室

講師：

社会福祉法人 大阪ボランティア協会 水谷綾事務局長

当日参加人数：

26団体38名（14地活協20人、NPO・ボランティアグループ12団体18人）

全体の流れ：

- 14:30 開場 参加者受付・資料配布
- 15:00 開始挨拶、講師紹介
- 15:10 講座開始（大阪ボランティア協会水谷事務局長）
- 16:05 休憩
- 16:15 個人ワーク、グループ内プレゼン
- 16:50 「異次元交流ライブ」の案内、アンケート記入
- 17:00 閉会

テーブル配置の工夫：

テーブルは講座形式の並びとしながらも、後半に実施するワークに配慮し、参加者を「A-1（前列）」「A-2（後列）」～「H-1（前列）」「H-2（後列）」までの16テーブルに区分けして席を指定した。

なお、前列は地活協、後列はNPOとし、ワークの際に前列の人が反転することで、地活協とNPOが4～5人の混合グループとなるよう工夫した。

内容：

特に地活協で自立的な地域運営が求められる中、助成金申請にかかる不安や、心理的ハードルを下げることで、地活協とNPOの交流促進を意図して、淀川区まちづくりセンターの主催で開催した。

講師は社会福祉法人大阪ボランティア協会の水谷事務局長。前半の講義では「助成金獲得のための魅力的な企画書作成のコツとその準備」と題し、NPOの財源構成について説明があった後、助成金の特徴や申請先選び、企画書作成のポイントについてお話を聞いた。

講義で特に強調されていたことは「良いことをしているから助成金が出るのではなく、助成元がやってもらいたいことを効果的に、確実にやってくれるところに助成金が出る」ということであり、参加者は助成金をもらう側の視点だけでなく、出す側の視点についてなどを学んだ。

後半は「助成金を申請する場合の企画」をテーマにワークを実施。白紙A3用紙を4つ折りにして、参加者各自が「①事業名」「②目的、金額」「③内容・ポイント」を記入した助成金のプランを作成。地活協とNPO団体の混合グループで集まり、参加者自らのプランについてプレゼンを行った。

アンケート結果考察：

講座終了後に実施したアンケートでは、計30人（約79%）から回答が得られた。

回答者の所属は地活協17人（55.7%）、NPO5人（16.7%）、その他8人（26.7%）であった。今回の参加申込者は地活協、NPO・ボランティアグループに限定していたため、法人格を持たない任意団体の多くがその他を選択したと思われる。

設問2で講座を5段階評価してもらったところ、「4」を選択した人が回答者全体の50%を占め、次いで「3」が26.7%、「5」が16.7%と続いた。

主な理由は次の通りであった（一部抜粋）。

選択5:

【地域活動協議会】

- ・助成側の主旨がよくわかりました。
- ・非常に分かり易い説明で理解出来た。

【その他団体】

- ・審査側の意向を理解できた

選択4:

【地域活動協議会】

- ・助成金は成長を助ける為の資金である。申請書は第三者的な目を持って見る大切さ

- がある。) ことが分った。
- ・ あきらめない事を知る
 - ・ 講師の説明が大へん理解しやすかった。
 - ・ ポイントがわかりました。

[NPO 団体]

- ・ 助成する側の意図のつかみ方が理解できた
- ・ 初めて助成金についての講座を聞き、その難しさがよくわかりました。

[その他団体]

- ・ ポイントが明確でした。
- ・ 前半がすこし足長だったように感じた。パワポ資料も字ばかりのような…？
後半、グループワーク以降の部分がもっとしっかり時間をさいてほしかった。

選択 3:

[地域活動協議会]

- ・ 地活協としては少し早いのでは。

[NPO 団体]

- ・ 助成金の意味を理解できたのだが、内容が基本的な事にとどまり、求めている内容とは少し違った。

[その他団体]

- ・ 具体的でもなく…

選択 1:

[地域活動協議会]

- ・ おもに NPO での話ばかり 地活協とはかなり違いがある “場違いなところに来た”

感想の特徴として、選択 5 と選択 4 の違いはあまり見られなかったが、「助成する側の視点」が理解できたという反応が多かった。この反応は設問 3 の傾向でも表れており、全回答者の 76.7%が「助成金を提供する側の視点」、53.3%が「応募書類作成のポイント」が理解できたと回答している。なお、選択 3 は当初中くらいの評価に該当するものと思われたが、評価をした回答者の感想を見ると、当初期待していた内容とのずれを感じている層であることが明らかになった。

助成金の申請で難しいことについて問う設問 4 では、地活協では「申請する事業のテーマ設定」が最も選択する比率が高かった (35.3%) のに対し、NPO やその他団体では「応募書類の書き方」を選択する回答者が多かった (NPO40%、その他団体 50%)。

「その他」の回答で「地域のとりまとめ、方向性を示し理解してもらうこと」が挙げられていたことと合わせ、この傾向は地活協では助成金の審査を通過するために「どう書くか」よりも、「申請するかどうか」の時点ですまづいていることが改めて明らかとなった。

設問5の参加したい講座については、全体で「チラシ作成講座」(43.3%)が最も高く、次いで「Face book 活用講座」(33.3%)、3番目に「自主財源獲得講座」(30%)であった。

設問4と設問5はいずれも全体の選択比率が50%以下であることから、現在の団体の課題やニーズは特定の項目に集中せず、多様であることが伺えた。

まとめ：

今回の講座は、地活協とNPO・ボランティアグループの方々が同じ空間で学ぶ初めての試みであったが、会場の雰囲気としては前半の講義と、後半のプレゼンテーションで対照的な結果となった。

前半の講義の内容は「助成する側の意図のつかみ方が理解できた」など、概ね好評であったものの、地活協としては「少し早い」「NPOでの話ばかり」、一方のNPOは「基本的な内容」に留まったという意見も一部にみられ、意見・感想の数も全体的に低調、配布した質問用紙による質問数は結果として0件であった。

一方、後半のプレゼンテーションではグループで互いのプレゼンに熱心に耳を傾ける様子が伺え、多くの笑顔を垣間見ることができた。当初、地活協とNPOの相性については懸念もあったが、前向きなプランを提案し合う場が、地活協対NPOではなく、企画を提案する個人として溶け込み合う結果につながったものと思われる。

今後は異次元交流ライブなどで地活協とNPOの交流を促進すると共に、助成金獲得を前向きに考えている団体があれば、募集情報の提供や応募書類作成支援等を進めていきたいと考えている。

当日の様子：

